



未来をつなぐ税という道路

大田区立大森第十中学校 三年 渡邊 暁

ロードバイクで都内を走りぬげ、風や路面の振動を心で感じるの爽快感以外の何物でもない。スピードを上げることには大きくなる風の音、マシンと一体となってペダルを踏み込むこのスポーツは私にとって最高の趣味だ。

「路面の振動」というと、ガタガタしているのをイメージするかもしれない。が、最近はそうとは限らないというのが事実だ。国道はどこもとてもきれいに整備され、ガタガタではなく路面にヒタリはりつく滑らかさを感じるようになった。夜になっても明るい街灯や、遠くからでも見えるLEDの信号、自転車専用道路などで安心してサイクリングや練習に取り組める。この色々な設備や道路は、多額の税金によって実現していると感じていた。

調べてみると、実に一兆五千億円が道路整備事業費として税金から使われていた。国の公共事業関係費のうちの二十七・五パーセントにもなる。こんなにお金をかける理由は道路を新設、改良、維持管理をすることと皆さんのメリットが生まれるからだ。例えば、道路が整備されることによって、渋滞が解消されやすくなる。道路の舗装が良好だと、車

両の走行がスムーズになり、速度が安定する。速度が安定すると流れやすくなるため、結果として渋滞が減る。渋滞が減れば排気ガスなどの汚染物質が減少する。汚染物質が減れば地球温暖化の防止に貢献することができる。また、渋滞による騒音の防止、物流の効率化による経済活動の向上、地方の観光地の活性化なども見込める。このような利点から、国は多額の税金を使ってまでも道路を整備してくれるんだと分かった。

しかしながら、片側一車線の道や一本道など、比較的小さい道にはまだまだ整備が行きとどいていないと感じる。消えかけの街灯や亀裂、凹んだ大きな穴は転倒や事故につながる。安全な街づくりには事故防止策が不可欠である。早急に税金をかけて修復していくべきだ。

道路を整備することは安全、経済、環境にいい影響をもたらす。その道路を整備するためにはやはり税金が必要になる。よく「税金は払うばかりで、割に合う還元がされてない。」という人がいるが、税金はどこにどう活用されているのかが分かりづらいからそう思ってしまうんだろう。そこで私たちの一日にどれだけ税金が活用されているかをよく考え直してみてほしい。道路をはじめ、警察、消防、病院、学校、社会保障など、どこでも税金は使われている。あなたが払った税金は、絶対にどこかで人、物、社会の為にあって還元されているはずだ。税金を支払うことは日本の発展への「投資」だ。これから私達は、生涯で皆さんの「投資」をするだろう。道路から地域、地域から社会、社会から日本の未来を紡ぐ税金。私達は人、物、社会、そして将来のために、責任を担っていく。